

新体制でのスタートから1ヶ月経ち、学校では様々な学校行事、研修等が本格的にスタートするこ とと思います。教育研究所の各種研究・研修事業も5月からいよいよ本格始動となります。今年度も 先生方の御協力をよろしくお願いいたします。

5月の連休が終わりました。子どもたちの様子に変化が見られるでしょうか?子どもたちは、少し ずつ新しい環境にも慣れ、勉強、係活動、学校行事、部活動等様々な活動に努力していると思います。 そのため、疲れを感じやすくなる時期です。適応への援助が大事なこの時期の、先生方による情報共 有は効果的な支援につながります。短時間でも情報交換を試みていただき、子どもたちの願い、不安、 悩みに対して組織的に対応をお願いいたします。

第1回学習指導主任研修会より

5月7日(火)の第1回学習指導主任研修会において、S&U コラボ事業で今年度も御指導くださる 宇都宮大学教育学部教授 松本 敏 先生に御講話をいただきました。

「学びを保証する授業づくりと指導に生きる評価の工夫」という演題での御講話は、

世界を見据え、子供たちが身につける必要とされる力をわかりやすく話していただきました。

詳細は、学習指導主任の先生に御確認ください。これからの授業研究を考える上で参考にしてください。

1 これからの社会と求められる力

- ① 知識基盤社会とは…正解のない課題に常に向き合わされる。
- ② その社会で飯が食える人間とは…仲間だけでなく、競争相手とも共有する必要がある。
- ③ 千一ムで主体的に働ける人…「同僚性」は単なる仲良し状態ではない。
- ④「ことばの力」が勝敗を左右…他者と横の関係でつながれる脳と心にすることが大切。

2 日本の子供の現状

- ① 世界が求める力は共通…異質な他者と対等に関われる力を重視している。
- ② 世界は日本をどう見ているのか…教わったとおりにしかできない人間は社会で役に立たない。
- ③ 日本の子供の意欲の低さ…学校での勉強と人生とが切り離されている。

3 必要とされる力をどう高めればよいか

1 みんなの学力…一人の学力からみんなの学力へ。

- ② 「言語活動の充実」が目指すもの…言語活動の充実はプロセスに意義がある。
- ③ 異質な他者との意見交流…意見の違いから新しい価値ある考え方を一緒に生み出すことが大切。
- ④ 「学び合い」を鍛える…魅力的な課題や教材。 学級経営。 学び合いを組織する。

4 評価問題の工夫の方向性

① PISA の問題をよく検討する。②文部科学省が 10 年間に行った諸調査の問題をよく検討する。

みんなで学ぶ

おもしろさ

【5月の予定】

- ※ 各研修会等詳細は文書でご確認下さい。
- ※ 時間のみ記載の研修会の場所は、石橋庁舎です。
- ※ 市教育研究所主催行事 市関係行事 学校関係行事 その他

日	月	火	水	木	金	土
			1 サポートセンター学 校巡回訪問(南河内 中・国分寺東小)		3 憲法記念日	4 みどりの日
5 こどもの日	6		学校巡回訪問(薬師 寺小)	9 市小中特別支援学級 合同レクリエーション大会 8:50大松山公園 サポートセンター 学校巡回訪問(緑小)		11 下都賀地区中学校 春季大会
	進委員会①15:30 サポートセンター 学校巡回訪問(国分 寺小)	小中連携プロジェクト 委員会①14:00 小中連携教育研究	要請訪問 (祇園小) サポートセンター 学校巡回訪問(吉田 東小・祇園小)			18 細谷小運動会 古山小運動会 石橋北小運動会
19	20 サポートセンター	21 サポートセンター 学校巡回訪問(細谷 小)		サポートセンター 学校巡回訪問		25 国分寺小運動会 石橋小運動会 南河中体育祭
2 6	絡会研修会 14:00 小山文化センター	28 市就学支援研修会 15:30 サポートセンター 学校巡回訪問(国分 寺西小)	国分寺小)	30 市社会科副読本活 用研究会①15:30	The state of the s	The state of the s

スキルアップ:ワンポイント講座

今年度も1ヶ月が過ぎて、パソコン室での授業も開始される頃になりました。この時期に子供たちの姿勢に注意してみるとよいと思われます。 そこで、パソコンに向かうときの正しい姿勢について掲載します。健康のためにも以下を守る習慣をつけましょう。

【椅子の高さ】

キーボードに手を置いたとき、肘が90度以上になる高さ。きれば履物の裏面全体が床に設置するように足置き台を置くとよいです。

【体の位置】

ディスプレイとキーボードと頭の位置が一直線上になるようにする。(足を組んだり、椅子を回転させないようにしましょう。)

【ディスプレイの位置】

画面から目までの距離を 40 センチ (ワイドモニターは 50 センチ) 以上離します。画面の高さと向きは水平視線よりやや下向き (ディスプレイの上端が目の高さ前後) になるように調節します。

【輝度とコントラストの調整】

印刷した白い用紙と見比べて、液晶ディスプレイの色が同じになるように輝度やコントラストを調整するとあまり疲れない状態になります。調節方法がわからない場合は、情報教育アドバイザーまでご依頼ください。

%内容は、平成 14年に厚生労働省が定めた「VDT作業における労働衛生管理のためのガイドライン」を基にしておりま

す。ホームページ http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/04/h0405-4.html

